

JAMの主張

「組織変革への道」 組合員の心に変化を与え行動を変える

【機関紙JAM 2019年10月25日発行 第249号】

「変革・再生・創造 — 対話と行動で組織を強化しよう —」は、第21回定期大会において確認された今期2年間のスローガンである。運動方針の中でも組織強化や組織変革が基調となっている。

以前の本稿で、組織とは共通目的（理念・方針）を持ち、参加する人たちと対話と行動を通じて、目的を達成する協働の総体であると記した。今、弱体化した組織JAMを、変革しなければならない状況下に至っている。

アメリカの心理学者ウィリアム・ジェームズは「心が変われば行動が変わる、行動が変われば習慣が変わる、習慣が変われば人格が変わる、人格が変われば運命が変わる」と説いている。経路依存性のことを指しており「あらゆる状況において、人や組織がとる決断は、過去に人や組織が選択した決断によって制約を受ける」という理論である。要は、物事において歴史的経緯はとも重要であるということらしい。

組織変革は、組織の最終的な目的達成に向けて行うものであり、そのためには「組織変革とは何なのか」、「何のために組織変革が必要か」を明確にし、共感を得て一体感を醸成することが重要である。結成二十年を経て、弱体化に危機感を持ったJAMが取り組む「組織変革」は、目的達成までに紆余曲折もあり時間も要すだろう。途中で様々な問題も生じるだろう。目的達成の阻害要因となっている問題点は、丁寧に解決していくことを重ね、そのプロセスを「組織強化」につなげていこう。肝要なのは、組合員の心に変化を与え行動を変えることで、JAMの変革・再生・創造を成し遂げることだ。

継続は力なり。物事を成し遂げるまで諦めずに取り組み続けることは、それ自体に地力が必要だ。地道に成果を積み重ね続ければ、やがて大成できる。我々には行動する力があるはずだ。

副書記長 川野英樹